

こんにちは。研修部の今村です。

今回は、自立活動の6区分の中の「3 人間関係の形成」と「6 コミュニケーション」について、お話してみたいと思います。

「人間関係の形成」と「コミュニケーション」の区別がつかないと言われることがあります。

そこで、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月」を見ますと

67ページに「3 人間関係の形成」には、「自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点から内容を示している。」と記載されています。

92ページには「6 コミュニケーション」には、「場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点から内容を示している。」と記載されています。

これは、少々読み込む必要があります。それぞれの目標等の違いを私なりにまとめてみました。

「3 人間関係の形成について」

目的：良好な人間関係を築く力を育成する。

内容：仲間づくり、他者との関わり方の理解を理解する。

付けたい力：信頼関係の築き方・協調性、社会性

指導例：ペアやグループでの活動・自己紹介の練習

評価のポイント：他者との関係性が築けているか

「6 コミュニケーション」

目的：自分の思いや考えを他者に伝える力を育成する。

内容：言語・非言語でのやりとり・意思表示の方法

付けたい力：伝える力・聞く力・受け止める力

指導例：カードの活用・会話練習・AACの活用

評価のポイント：相手と適切な意思のやりとりができてきているか

以上のまとめで、イメージできましたでしょうか？

「人間関係の形成」は“人とつながる力”を育成すること。

「コミュニケーション」は“つながるための方法や表現力”を育成すること、かなと思います。

「人間関係の形成」と「コミュニケーション」は密接に関係しており、人との関係を築くには、まず適切なコミュニケーションが必要です。一方で、安心できる人間関係があってこそコミュニケーションも育成されます。

さて、教員である私たちもこの二つの力をもって指導にあたらなければならないことを忘れがちです。「人間関係の形成」と「コミュニケーション」の力を育てるには、まず、教員が幼児児童生徒にとって、安心できる人間関係を築ける存在になることが大切です。

なぜ、自立活動の指導が難しいのかを同僚と話したときに、「教員が、ずっと指導者の目線にいるからなんだ。」と遅ればせながら気付きました。ずっと指導者の目線にいると幼児児童生徒の心理面や行動面を深く分からないままではいるのではないかな？

本校には、視覚障がいのある先生方が、たくさんいらっしゃるの、視覚障がいについて分からないことを直接聞くことができます。自立活動では、理療科の先生方が学部を越えて指導をしてくださったり、助言をいただいたりできるという恵まれた職場環境にあります。この教員の連携を通して、一人の主観に充実した自立活動にしていきたいですね。

視覚障がいのある方が、視覚障がい教育の理解を深める一番の近道は、「視覚障がいのある方々とお友達になっていくことですよ。」と教えていただきました。

私たち教員が「人間関係の形成」と「コミュニケーション」の能力を発揮して、教員間で連携を図る姿を幼児児童生徒に見せることも指導の一つなのだと思います。個々の教員が「人間関係の形成」と「コミュニケーション」を生活に般化させ、幼児児童生徒のモデルとなるように研究と修養を重ねていくことが、自立活動の指導を充実させていくために大切なことだと思います。